

大久保環濠集落跡発掘調査の概要

調査場所	宇治市大久保町山ノ内 55 番の一部	発掘機関	宇治市歴史まちづくり推進課 Tel.0774-21-1602
発掘理由	老人福祉施設建設に伴う事前調査		
調査期間	平成 27 年 10 月 13 日開始 ～ 平成 28 年 1 月終了		
発掘面積	540㎡	発掘深度	1.5m
検出遺構	竪穴住居跡・掘立柱建物跡、井戸など	出土品	須恵器・土師器など整理箱 18 箱。

1、大久保の遺跡について

大久保には、大久保環濠集落跡と且棕遺跡、南ノ口遺跡の 3 遺跡があります。南ノ口遺跡については、これまで本格的な発掘調査を行っていないので詳細は分かりませんが、且棕遺跡では 6 世紀後半の古墳群と主に 7 世紀代の竪穴建物等を検出しています。大久保環濠集落は、中世において集落の周りに防御のための濠を巡らせたもので、ここでは 14 世紀前半の鋳造遺構を検出しています。また小規模な調査ですが、同じ敷地内で環濠内と思われる地層を検出し、14 世紀代の土器が出土しています。

2、調査の概要

調査は、建物の建設予定地全体の 540㎡を実施することとしましたが、排土を置く場所がないため東半部と西半部の 2 回に分けて調査を実施しました。調査前の当該地は畑であり、畑の表面からは須恵器などが採集される状況であったことから、且棕遺跡のように後期古墳が埋没している可能性が考えられました。

調査の結果、古墳時代中期から後期初頭の竪穴建物 4 棟をはじめとして、古墳時代から奈良時代の掘立柱建物、中世の井戸など多くの遺構を検出しました。

東半部で検出した竪穴建物 1 では、住居の南東部に収納ピットがあり、ここからは須恵器の杯や土師器の甕、製塩土器が出土しました。西半部で検出した竪穴建物 3 では、滑石製の白玉の未成品や加工途中の滑石が出土しており、玉作りが行われていたことが明らかになりました。

掘立柱建物については、現在のところ出土遺物の検討ができていないため、明確な時期を特定することができませんが、古墳時代後期や飛鳥時代、奈良時代の土器が出土する柱穴があり、各時代の遺構があることが考えられます。

東半部で検出した井戸は東西 3m、南北 2.5mの素掘りの井戸で、13 世紀のものでした。

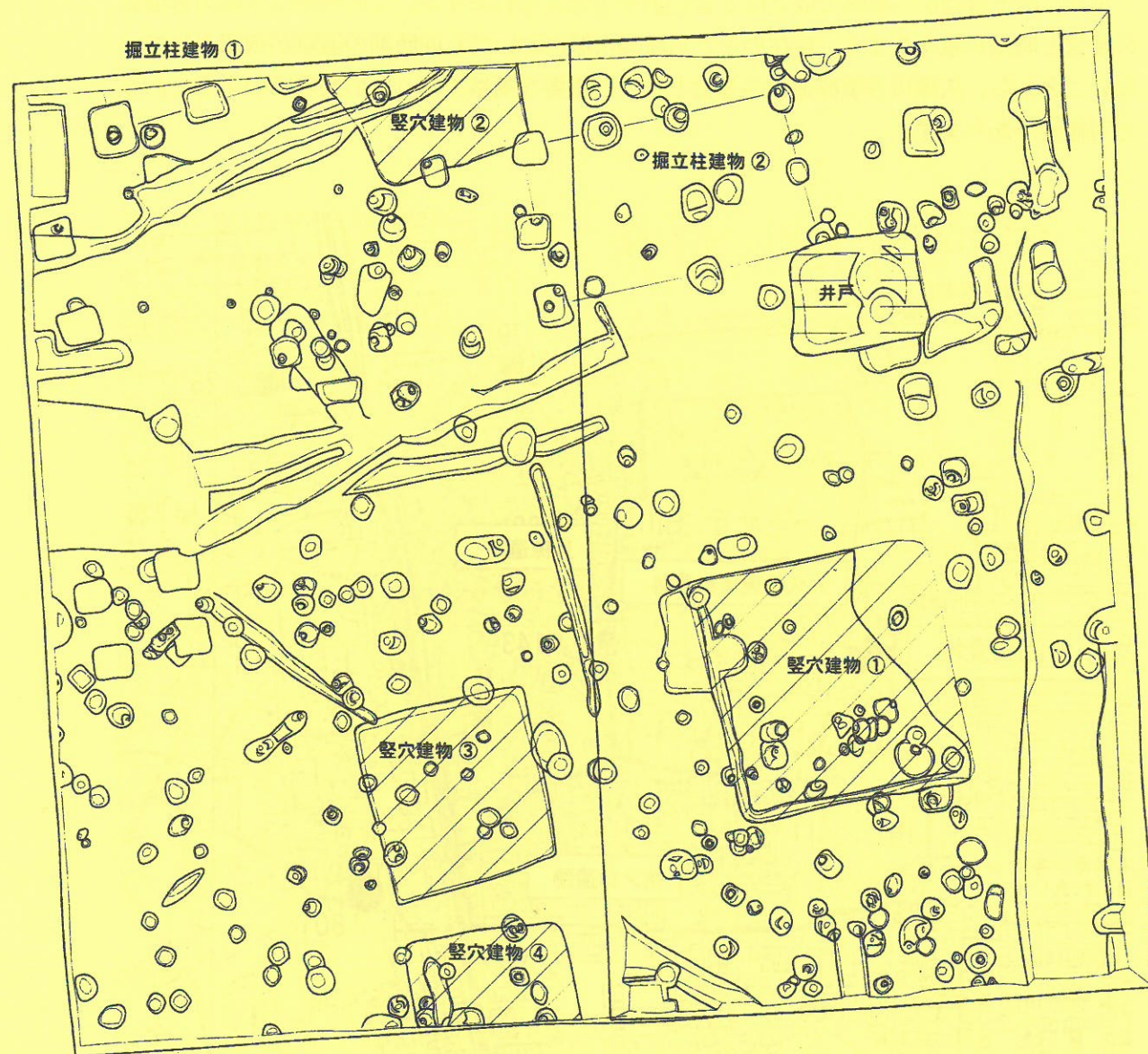
3、まとめ

今回の調査では、古墳時代中期から中世にかけての様々な遺構を検出しました。今回の調査の中で特に注目されるのは、古墳時代中期に遡る集落の発見です。古墳時代の竪穴建物か

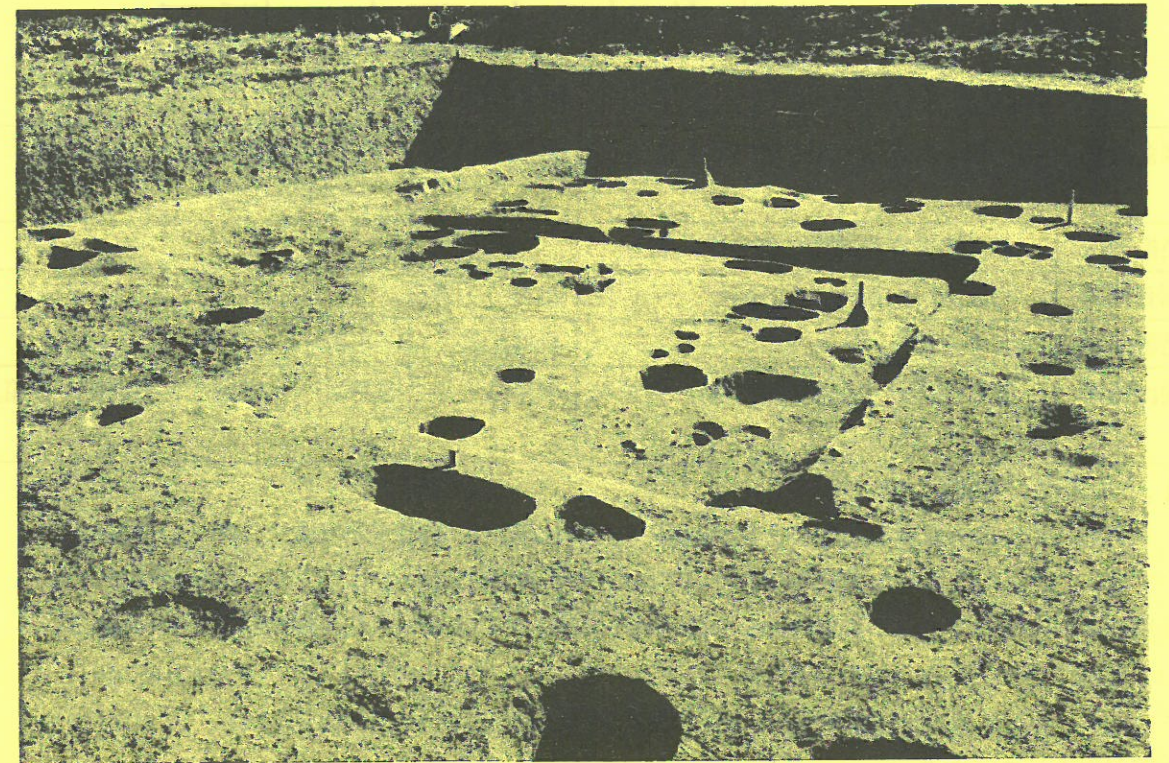
らは製塩土器が出土したり、別の竪穴建物では玉作りが行われるなど一般的な集落とは様相を異にします。南山城地域で製塩土器が出土しているのは、八幡市の内里八丁遺跡、精華町の森垣内遺跡、木津川市の上粕北遺跡があり、地域の拠点的な集落か渡来系の遺構・遺物が出土している集落です。このことから今回の調査地付近がこの地域の拠点的な集落であったと考えられます。

また、出土遺物から集落の成立は 5 世紀前半と考えられますが、この時期は久津川古墳群の造営と時期が重なります。現在のところ城陽市域においても同時期の遺跡が確認されていないことから、久津川古墳群造営の基盤となった重要な集落であり、旧栗隈郷の中心であった可能性があります。

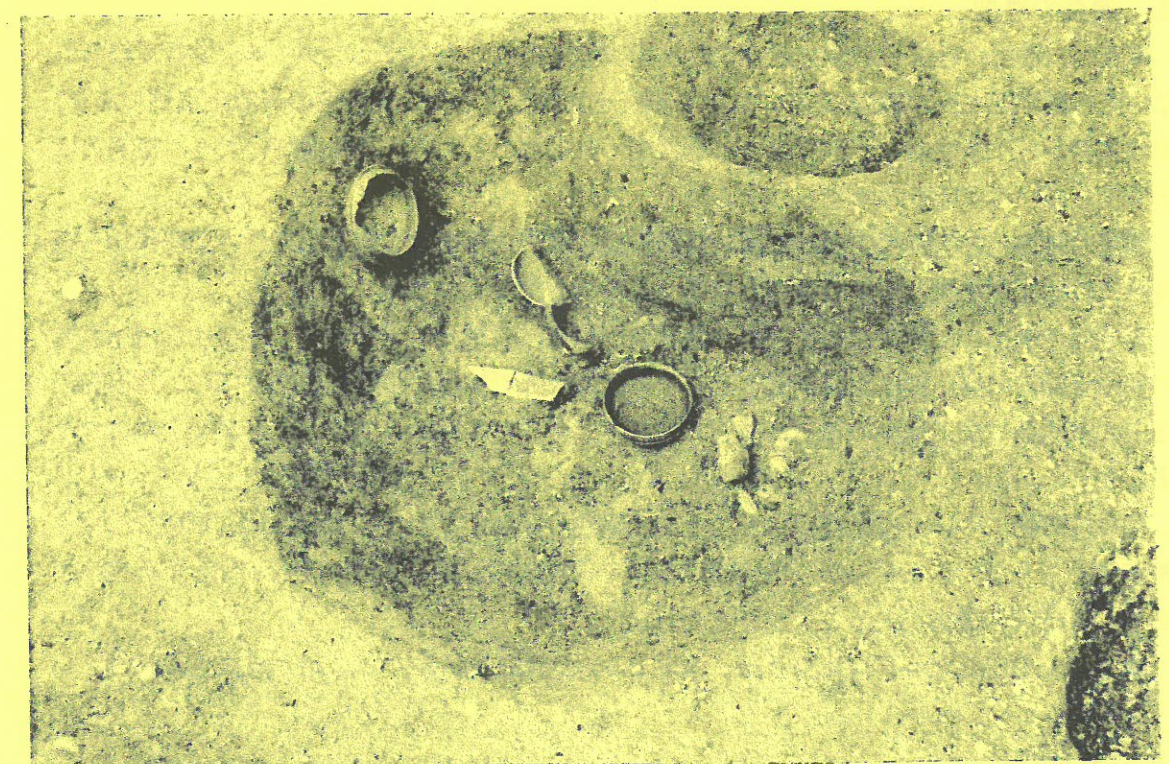




トレンチ実測図



竪穴建物 1



竪穴建物 1 土器出土状況